

能満寺便り

お盆を迎えて

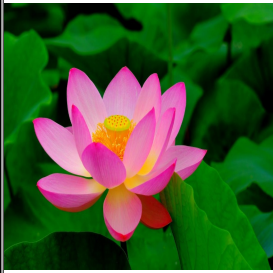
令和元年のお盆を迎えました。この原稿を制作中に、とても痛ましく悲しいニュースが入りました。京都のアニメスタジオにおける放火殺人の

知らせです。詳細は今後の捜査等で徐々に判明すると思いますが、災禍に遭われた方々のご冥福をお祈りし、並びに家族の方々に心より哀悼の意を申し上げます。さて、**夏目漱石**『**草枕**』の冒頭です。

(発行) 広島県福山市 西町1-20-3 妙智山普門院寺 能満 寺
TEL 922-2729 fax932-1708

お経の言葉

『**清浄**』(しようじょう) 「煩惱のちりに包まれて、しかも染まることも、汚れることもない、本来清浄な心がある。まるい器に水を入れるとまるくなり、四角な器に入れると四角になる。しかし、本来、水に丸や四角の形があるのではな



蓮のはな

自由な境地が得られるであろう。」

〔首楞嚴經〕

い。ところが、人々はこのことを忘れて水の形にとらわれて、善し悪しと見、好む好まぬと考へ、有り無しと思ひ、その考へに使われ、その見方に縛られて、外のものを追って苦しんでいる。縛られた見方を外の縁に返し、縛られることのない自己の本姓にたち帰ると、身も心も何ものにもさへぎられることのない、自由な境地が得られるであろう。」

「山路を登りながら、**智に働けば角が立つ。情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかく人の世は住みにくい**」漱石初期の作品です。英文学を専攻し留学したインテリ教師が明



仏教では、人間の心はもととも光輝く清浄なものだと考へられてきました。この考へから、人間は清浄な悟りを開く性質**仏性を内蔵**している存在であり、私達の真言密教では、それ故に我が身のままで仏になることが出来る。

即身成仏を体得できるとされます。『みんな仏の子であり、仏の下に帰る』とされます。

治維新という歴史の变化激動の時代に、なだれ込む西洋文化に対して日本人として自分の内面と真摯に向き合いながら、文学者として多くの名著を残しました。



我が国が明治維新から約150年、第二次世界大戦という大きな代償を払いつつも近代国家として世界有数の国際社会の一員に至るには、様々な文化的葛藤と時間が掛かっていると思えますが、その現在を生きる私達も、人類がかつて経験したことのない大量の情報にさらされていく、多様な価値観を目の当たりにし、外部からの影響を強く受けている点では、漱石の時代と似ていると思えます。漱石は晩年『**則天去私**』(自然の道理に従って、狭量な私心を捨

院内短信

◎十一月三日(日) 既にご案内の通り、左記の日程にて真言宗最高法義『**光明真言土砂加持**』法会を厳修致します。詳細、案内は別便にて九月頃に檀信徒皆様に郵送致します。今般の法会は**十年に一度**開催いたし一日三座かけて、能満寺

に關係する精霊様全員をご供養する有難い法会です。尚、記念文化事業として、東京より現在活躍中の真打の落語家『柳家小八』師匠をお招きして、お昼のひと時を皆様と過ごしていただくイベントも開催予定です。又、当日はお昼にお

うどんのお接待をご用意しております。どうぞ皆様お誘いあわせの上、お参り下さいませよう。ご案内申し上げます。

本年度は**秋季彼岸法会**は**お休み**となります。土砂加持の卒塔婆供養を致しますので、ご先祖様供養申し込みは、こちらにてお願い致します。○川口町唐川様よりお地藏様の手作りの涎掛け頂きました。

て去り、崇高に生きること」という、ある種の宗教的悟りの境地を理想といたしました。漱石は自己の内面にある心の平安を究極の目標としたのでしよう。

「あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊い」(『草枕』)つまり、目に見えないもの、或いは目に見えるその先にあるものこそ尊いといっているのです。現代を生きる私達も自らの内面と向き合うことが必要といえるでしょう。先祖供養は

◎福山市出身。平成一三年東京農工大学卒業。同一五年柳家喜多八門下入門同一八年二つ目『ろべえ』同二九年真打『小八』襲名、人間国宝柳家小三治門下、平成二八年『ろべえ』時代、能満寺本堂にて落語会開催。

合掌

モットーは「清く、けだるく、元気良く。」

柳家小八プロフィール



十一月三日正午より福山市西公民館にて柳家小八落語会(無料)